



春国岱は、根室湾と風蓮湖の間に横たわる細長い砂州（長さおよそ8km、最大幅およそ1.3km、面積約600ha）です。数千年の時間をかけて知床方面から海流によって運ばれてきた砂が堆積してできた、3列の砂丘からできています。

湿原、干潟、草原、針葉樹林、広葉樹林など多様な自然環境を擁しています。クロユリやコケモモ、ミズバショウ、ハマナスなど、これまでに280種類前後の植物が記録されています。また、野鳥の種類も多く、これまでに260種類ほどが記録されています。風蓮湖で確認された野鳥を合わせると310種類ほどにもなります。その多くは渡り鳥で、全種類数の約9割を占めます。中でも多いのがガン・カモ類とシギ・チドリ類です。風蓮湖には、5,000羽ほどのオオハクチョウ、数千羽のシギ・チドリ類が訪れます。他にも、さまざまな動物たちが生息しています。エゾシカやキタキツネは一年中見られます。森には、エゾリスやエゾモモンガが、水辺には、ゴマフアザラシやイルカ類が暮らしており、季節ごとにさまざまな姿を見せてくれます。

発行：根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター
発行日：2012年3月
作成：(公財)日本野鳥の会

自然ごよみ



根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

ネイチャーセンターでは、根室市の自然や見られる生きもの、おすすめポイントなどの情報を専門のスタッフがご提供しています。また、観察路マップなどの資料をお配りしています。

住所 〒086-0074 北海道根室市東梅103番地
開館時間 AM9:00~PM5:00(4月~9月)、AM9:00~PM4:30(10月~3月)
休館日 水曜(祝日の場合、その翌々日)、祝日の翌日(土・日曜は除く)、12/30~1/5
入館料 無料 電話 0153-25-3047
ホームページ http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html

月	旬	野鳥	草花 (○開花 △その他)	その他の自然
4	上旬	タンチョウが湿原に戻ってきます。草原にはヒバリが渡ってきます。	コクジュウヤサザセンソウ ヲクキハナが芽を出します。	エゾカガイルが産卵します。
	中旬	クマゲラの求愛の音がするようになります。	○ミスズシヨウ	エゾサンショウウオが産卵します。
5	下旬	ルリビタキやノビタキ、ヒメシジク、ウグイス、アリスイなど夏鳥が渡ってきます。	○エゾエンゴサク、キバナアサギ、スミレの仲間	春国岱の前浜で潮干狩りが始まります(有料)。
	上旬	ミヤコトリの数が増えます。オオシジギのデイスノールが見られます。	○ヒメイチヂク、コミヤマカタバミ、ミヤマスミレ	エゾアカガエルのおタマズヤケウシが誕生します。
6	中旬	夏鳥のゴマドリ、エゾムシクイ、キビタキ、コムクドリなどが戻ってきます。	○オオバシロエンレイソウ、エンゴソウ、エゾウグイス	蚊が出てきます。虫よけがあると快適です。
	下旬	シギ・チドリ類の数が増えます。カウコウ、シヨウトツツバメが戻ってきます。	○ヒメイチヂク、ヒメスズメ、エゾウルキソバ、オオタチツボスミレ	森でエゾリスに出会えるかも！エゾシカが夏毛になります。
7	上旬	ノド、ノビタキ、ルリビタキ、コサビタキなどの夏鳥のさえずりがにぎやかになります。	○ニリンソウ、スズメソウ、クロユリ、ハマザサ	エゾサンショウウオの幼体が誕生。
	中旬	シヨウトツツバメが飛び回ります。	○セウダイハギ、チシマツルク、シウリザクラ	カラスアザハ、ウラギンヒヨウモシなどが飛び回ります。
8	下旬	小鳥たちのヒナが巣立ちの時期をむかえます。	○ヒオウギアサギ、ハスエビソウ、ウミミドリ	カラスアザハがよく見られます。
	上旬	ミヤコトリが少数越冬します。秋の渡りのダイゼンヤトウネンが渡ってきます。	○コケモモ、ツルアジサイ、ハマナス、ヒオウギアサギ、エゾコリンゴ、エゾフクロ	エゾハルゼミが鳴きはじめます。
9	中旬	秋のシギ・チドリ類の渡りシーズン終了。海辺にクロガモ、アビ、オオハムが飛来します。	○オオハナエリ、エゾカワラナデジク、キツリフネ、ハチイカリ	お盆が過ぎると秋風が吹きはじめます。
	下旬	秋のシギ・チドリ類の渡りシーズンがピークになります。	○ツリガネニンジシク、クルマユリ、エゾオグウル、ハンゴウソウ	ハナナガキリギリス、イナキヒメギスなど秋の虫が鳴きます。
10	上旬	秋のシギ・チドリ類の渡りシーズンがピークになります。	△フツクシソウ(別名:サンゴ草)の紅葉がキレイです。	赤トンボの仲間が飛び回ります。
	中旬	秋の渡りのカモ類の数がピークになります。	△ヤマブキやツツクシが紅葉します。	エゾリスがツルミを食べにきます。
11	下旬	風蓮湖全体で数万羽にもなります。		沖合にイルカが泳いでいることが見られます。
	上旬	タンチョウが移動を始め、風蓮湖周辺の刈り取り後のデントーン畑に集まります。	△春国岱の森のコケが美しくなります。	エゾシカが発情期をむかえます。ハーレムが作られます。
12	中旬	ケアシソウ、ハインロチユウなどのタカ類が渡ってきます。		風蓮湖のゴマフアザラシの数が増えはじめます。
	下旬	冬のフクロウ「コミズク」が渡ってきます。海上にコオリカモやヒロキソウ、ホオジロガモなど海カモ類が渡ってきます。		風蓮湖が結氷し始めます。
1	上旬	オオロシ、ノスリ、ハインロチユウなどロシ・タカ類、ユキホオジロ、ハギマシコなどの小鳥類が越冬のため飛来します。		海上を漂う氷の上にゴマフアザラシが乗る風景が見られます。
	中旬	オオロシ、オシロシの数が増えます。		風蓮湖で氷下待ち網漁が行われています。
2	下旬	クジラ類の飛来数がピークになります。		エゾシカの群れが見られます。
	上旬	クジラ類の数が減っていきます。		流氷が接岸します。
3	中旬	クジラ類の数が減っていきます。		
	下旬	クジラ類の数が減っていきます。	○コクジュウヤ ヲクキハナ	森でエゾリスが活発に活動します。



フクジュソウ

3月末、自然学習林やネイチャーセンターの周りに黄色いフクジュソウの花やフキノトウが春を告げるように顔を出します。続くように、赤紫のザゼンソウ、空色のエゾエンゴサク、黄色のキバナノアマナ、うす紫のスマレの仲間たち、そして、真っ白なミズバショウやオオバナノエンレイソウなど、つぎつぎと早春の花が咲いてゆきます。5月の初めまで、花の種類は少ないですが、まだ虫が少ない春は目立つ花をつけるものがたくさんあります。

4月頭、春の渡りに途中に、風蓮湖で羽を休めていた数千羽のオオハクチョウが、さらに北方の繁殖地にむかって渡ってゆきます。風蓮湖や春国岱の湿原には、越冬地の釧路方面から繁殖のために戻ってきたタンチョウが、なわばり争いをしたり、巣を作ったりと子育ての準備をしています。また、たくさんの種類のカモたちが見られます。

第三砂丘の森や自然学習林では、シジュウカラやヒガラ、ミソサザイがさえずり、根室で繁殖をするために、ヒバリやノビタキ、ベニマシコ、キジバト、オオジュリン、ルリビタキなどが渡ってきて、次第に草原や森がにぎやかになります。

4月末ごろから、オオジシギのディスプレイ・フライトが見られるようになります。干潟には、ミヤコドリが渡ってきます。

春到来の時期ですが、まだ雪が降ることがあります。花々に誘われるように、クジャクチョウなど成虫で越冬する蝶が冬眠から目を覚まします。



クジャクチョウ



ミヤコドリ



タンチョウ



ノゴマ

第一砂丘の西側の草原では、ヒバリが空高く舞い上がり、元気にさえずります。湿原では、子育て中のタンチョウの姿が見られることもあります。休憩舎付近やキタキツネコースでは、ヨシ原からコヨシキリやシマセンニュウ、オオジュリンの音が聞こえてきます。じっと待っていると、草むらから姿を見せてくれます。ハマナスなどの枝の先では、ノビタキやノゴマが元気にさえずっています。6月ごろには、拓卵にやってきたカッコウとノビタキの攻防が見られることもあります。

8月が近づくと、小鳥たちの子育ては終盤です。干潟には、早くも子育てを終えたシギやチドリたちが北の繁殖地から渡ってきます。ホウロクシギやチュウシャクシギといったクチバシがとても長いシギが採餌するさまはとてもユニークです。シギやチドリたちが数百羽の群れで干潟の上を右へ左へと飛びかう様子が見られるようになります。



メダイチドリ



ホウロクシギ



マイヅルソウ

初夏、第三砂丘の森の林床に、マイヅルソウやコケモモなどが咲きます。第一砂丘の草原ではセンダイハギが咲きほこり、一面が黄色に染まります。7月を過ぎると同じく第一砂丘の少し奥でハマナスが咲きます。3kmにも及ぶ群落がありますが、最近ではシカに芽をかじられてしまい、数を減らしています。

8月を過ぎると、ツリガネニンジンなどの秋の花が咲き始めます。

春国岱や自然学習林でキタキツネが子育てをします。巣穴から出てのんびりと日向ぼっこをしている子ギツネや一生懸命に魚などのエサを運ぶ親ギツネに出会えるかもしれません。



キタキツネ

12月を過ぎるとだんだんと風蓮湖が凍り始めます。徐々に氷が厚くなってゆき、1月中旬頃から氷の下に網を入れてコマイやチカなどをとる「氷下待ち網漁」が始まります。最近では暖冬の年が多くなり、氷が昔ほど厚くなりませんが、それでも漁のため切り出された氷は、厚さが30cm以上になっているものもあります。

この漁では、カジカやギンポなど商品にならない魚も一緒に取れます。こうした魚は選別され氷の上に置いて行かれます。



オオワシ

氷下待ち網漁が始まるとオオワシやオジロワシが集まってきます。氷下待ち網漁で残された魚をめあてに、ピーク時の1月末から2月中旬には、800から900羽が集まります。魚を取り合って乱れ飛ぶオオワシ、オジロワシたちの姿が見られます。

また、草原には、ハギマシコやベニヒワといった赤い羽をした小鳥たちが渡ってきます。さらに、雪原の天使とも呼ばれる、全身が白っぽいユキホオジロも、遠くは北極圏近くから渡ってきます。



オジロワシ

風蓮湖周辺に氷が張る時期になると、アザラシの数が増えます。引き潮などで流れ出た氷の上ののんびりと横たわって、海上を西へ東へと漂っていく姿が見られます。流水がくる2月には、出産のため沖に出してしまうので、見られなくなります。

夕方になると、エゾシカの群れが森から湿原を渡って第一砂丘に出てくるようになります。海岸に集まったシカは、足で土を掘って草の根を食べたり、ミネラル補給のために塩をなめたりしているようです。



ゴマフアザラシ



オオハクチョウ



タイリクアカネ

シギやチドリが南へと渡ってゆくと、入れ替わるようにカモの数が増えてきます。海側にはクロガモが、波の合間から姿を見せてくれます。風蓮湖には、オナガガモやヒドリガモ、ハシビロガモ、スズガモなどの群れが集まります。大型のヒシクイやコクガンも風蓮湖を訪れます。10月を過ぎると、つぎつぎとオオハクチョウが越冬のために渡ってきます。ごく稀に、コハクチョウなど他の種類のハクチョウが混じっていることもあります。



コクガン

ドングリやクルミ、ヤマブドウなどの木の実が実ります。これらの木の実を求めて、エゾリスやカケス、ヒヨドリなどさまざまな野鳥や動物がやってきます。春国岱では、アッケシソウ(サンゴ草)がキレイに色づきます。草原では、ウンランや、ウラギク、シカギク、ハチジョウナ、エゾオグルマなど、紫や白、黄色の花が咲きます。



エゾオグルマ



エゾリス

赤トンボの仲間が、つぎつぎと現れます。よく見てみると赤い部分や胸の黒い模様などがちがうトンボがいることに気がつきます。

また、草むらからは秋の虫たちのコーラスが聞こえてきます。イブキヒメギスのかぼそい音色は、気がつかないほど小さな音ですが、耳を澄ますとあちらこちらから聞こえてきます。



アッケシソウ